

「東大読書」と「東大作文」

「東大読書」と「東大作文」という本を読んでいます。飛び切り面白いということではないのですが、キーになる考え方は間違っていないと思います。というより、今まで考えてきた現代文の力の育成の仕方と同じだなあと読んでいます。なぜなら、学習の根幹にあるインプットとアウトプットの話であり、その根幹の地頭の力について語っているからです。

まずは、「東大読書」の要点をまとめました。

- 1 読解力……様々な情報から結論を推理してから読みを始める。
ゴール地点としての仮説を立てながら、逆算して今を捉える。
- 2 論理的思考力……取材のスタンスから質問のスタンスへ
疑わしいことを解明する中で自分で考える力とする
- 3 要約力……結局何を言おうとしているのかを短くまとめる。
主張を整理し、言いたいことの構造を知る。
- 4 客観的思考力……様々な視点からの反論や、多角的な視点を用いる。
例示、比較、追加、抽象化・一般化の流れを知る。
(接続詞がヒント)
- 5 応用力……アウトプットの仕方を工夫し、次なるインプットにつなげる。
書いてみる。どう書けるのかを考える。文章の設計図を下敷きにする。

次は、「東大作文」です。

- 1 要約力……最後に何を書くかが結局伝えることのすべて。
- 2 論理的思考力……なるほどそうかと思わせる形は、相手の考えを丁寧にたどる力である。
「言い換え」「根拠」「対比」の構造で書く。
- 3 客観的思考力……説得力は、突っ込みする方向性と答え方である。
- 4 接続詞がポイント。流れと論理を接続詞でつなげる。
譲歩によって、多角的になる。「たしかに」「もちろん」。
- 5 コミュニケーション能力……相手の立場を知る。
心の動きを先取る。
- 5 批判的思考力……推敲という反論からのスマートな文章作り。
共感を生むために自分の言葉で。

これでお判りでしょうか。読むことと書くことのルートは同じなのです。ベクトルが逆なのでもありません。ベクトルはむしろ双方向なのです。

同じ道を行ったり来たりしながら、自分の頭を駆使していくことが、読むことと書くことなのです。これが地頭を強化します。

